

ワタシ キニナル



vol.
1

design/manabu.yamauchi

目次

art を通して伝えたい思い	1
--------------------------	---

art を通して伝えたい思い

インタビュー **artstudio tete** 代表 ワークショップデザイナー

石岡有佳子さん

2019年青森市に【artstudio tete】を開業し、子供たちに美術を通して学ぶ楽しさを伝える体験型ワークショップの運営や、ドローンを使ったプログラミング教育の普及を手掛けるワークショップデザイナーの石岡有佳子さん。会社の代表そして3歳の男の子を持つお母さんでもある。

art studio tete の由来は？

「芸術は手を使って生み出されるもの、子供たちの手と手をからアートやコミュニケーションが生まれて欲しいとの願いを込めて tete にしました」

元々美術は好きでしたか？

「小さい頃から気がつけば何か絵を書いているような子供でした。学生時代も変わらず好きで、漠然と将来は美術の仕事に携わっていたいと考えていました。大学も美術系大学に進み、絵画や陶芸、テキスタイルなどを学んできました」

大学を卒業後、県外で特別支援学校、高等学校の常勤講師を勤めていたが、震災で青森にUターン。その後、青森県立美術館のエducator（教育普及担当）を5年ほど勤めた。エducator時代はスクールプログラムや美術館のイベント運営サポートを担当し、より美術に親しんでもらえるような創作体験の提供に努めた。スクールプログラムや企画展関係イベントとして、郷土の作家にちなんだ創作や対話型鑑賞の体験のほか、自らアイデアを立案した企画・運営を行ってきた。エducator後は、経験を活かし artstudio tete を起業する。

美術は自己表現の場

「これまで『美術は嫌い、苦手』という声を耳にしてきました。そこから「美術に対して、自分が感じたままに楽しみながら自由に取り組んでもらえたらいいのにな」という思いが芽生えました。自ら創作したものに対して評価される仕組みでは「上手・下手」という視点で評価されがちで、下手なものはダメだと思われるのではないのでしょうか。美術はひとつのツールであって自己表現の場でもあります。「上手・下手」「得意・不得意」に捉われることなく「どうしてこの作品をつくったのか」など、視点を増やしていくのもひとつです。現在は下手ウマといわれるイラストがある時代。上手いから良いというのではなく、あくまでも見る人（自分も他者も含めて）が「良いね」と思ったところに価値が生まれるものなのですから」

最初と最後は変わってもいい

美術館時代の経験を活かし現在はワークショップデザイナーとして活動。主にこども園の未就学児を対象にしたアート体験プログラムを提供しており、親子で幅広い分野のアートを楽しんでもらっている。就学前の子供たちには、美術を通して「自分で考えて

取り組む力」「最後までやり遂げる力」を身につけて欲しい思いがあるという。「実際、子供たちの反応をみていると夢中になって感じたままを表現してくれます。例えば最初に自分で思いついたものを作り始めても、途中から「やっぱりこっちがいいかな～」と変わっていくことがあります。自分で「これがいいな」と素材を見て、選んで、考えていくプロセスが大事なので、やりたいことは変わってもいいし、最初と最後は違ってもいいのです」

どうしたい？ を考えるきっかけ作り

今年（2020年）から小学校でプログラミング教育がスタートする。近年、産業・農業分野でドローンを使った実験や業務が増えていくなか「学校で教えるプログラミングにもドローンが使えるのでは」と青森市に拠点を置く「一般社団法人 日本ドローン活用推進機構」の常務理事として、プログラミングを活用したドローン飛行の体験会やワークショップを実施している。「プログラミング教育の本質は『課題を見つけて、解決するためには何を、どうしたい（動かしたい）のか』というプログラミング的思考が基盤となっている。ドローンもプログラミングで飛行させることができるので、教育に導入できると考えました。本質を忘れなければどんなツールを使っても一緒だし、それを楽しみながら身につけてもらうきっかけになればと思います」と教育とドローンの今後の展開を見据えた石岡さんの言葉にも力がこもる。

「美術はいろいろな教育のなかでも唯一自由に正解のないもの。アート体験教室やドローンワークショップを通して興味のあることを選択肢を広げてあげたいし、そこから体験したことで自分が好きなものを選んでほしい。自分の息子も含めて子供たちがこれから生きていく社会は、新しくつくられていくものが多い。彼らにも自分の好きなことを活かして、自分自身の選択で生きていけるように、私自身の今の選択が一つの例（土台）となってほしい」と笑顔で語る。これからの時代の変化に合わせてしなやかに、楽しみながら切り開いていこうとする石岡さんの意志を感じた。

ワタシキニナル`vol.1

版番号の予定

{{
-}}

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
